

ツールヒント

ツールヒントのトレーニングへようこそ。付属の練習ワークブックをダウンロードして、実際に Tableau を操作してみてください。

ツールヒントは見落とされがちですが、Tableau に欠かせない非常に強力な機能です。既定では、Viz の作成に使われた個々のフィールドがツールヒントに追加されます。そしてマークにカーソルを合わせると、参照元のデータが表示されます。これだけでも十分役に立ちますが、ツールヒントはさらに活用することができます。

ツールヒントを使ったストーリーテリング

ツールヒントをうまく使うと、ストーリーをさらに深く伝えられるようになります。そこでお勧めするのは、ツールヒントの内容を既定の形式から文章に変えることです。この Viz は、「2012 年第 4 四半期の家電の売上はこれだけです」と伝えることが目的です。では、ツールヒントでその通りに表示できないのでしょうか。もちろんできます。では、[ツールヒント] シェルフをクリックして編集し、新しいツールヒントを作成してみましょう。

まず、[年 (オーダー日)] フィールドを切り取って貼り付けます。ここで、フィールド名は山かっこで囲っておかなければなりません。山かっこで囲むと、Tableau は「年、かっこ、オーダー日、かっこ」というそのままの文字列ではなく、2012 や 2013 といったデータポイント値だと認識することができます。これを、希望する場所に貼り付けましょう。次に「年」と入力し、四半期のフィールドを貼り付けます。「の」と入力します。なお、フィールドは別の方法で入力することもできます。この [挿入] メニューを使うと、ビューで使われているどのフィールドでも追加できます。では、カテゴリーを追加しましょう。「の売上は」と入力して売上の合計を挿入します。最後に、既定のラベルをすべて削除しましょう。プレビューすると、うまく表示されています。

では、売上の合計の後ろに「ドル」と追加しましょう。フィールド自体の形式を通貨に設定することもできますが、この方が簡単な場合もあります。さて、ビューの上でカーソルを動かすと、ツールヒントでどの部分が重要なのかははっきりしない場合もあるとわかります。そこで、[ツールヒント] シェルフを再びクリックして「<合計 (売上)>ドル」を選択し、サイズを「12」にしてもっと太いフォントにしましょう。また、ビューに表示されていないフィールドでも、[ツールヒント] シェルフにドラッグすれば追加できるようになります。すると [マーク] カードには、前にツールヒントのアイコンが付いて、利益の合計が表示されました。そしてツールヒントのダイアログで「利益は」と入力し、利益の合計を挿入して「ドル」と入力します。これで、必要な情報が表示されるようになりました。

ツールヒント内の選択機能

これは、年と出荷モード別に配送費用を示した棒グラフです。それぞれの年の棒には、四半期ごとの内訳も示されています。ツールヒントが表示されているときにクリックすると、画面上に固定されます。そしてマウスを動かすと、ツールヒント内のさまざまなテキスト、つまりビューの作成で使われた不連続フィールドがクリックできるようになります。クリックすると、通常配送の全オーダー、第 2 四半期の全オーダー、その年の全オーダーをハイライトすることができます。

しかし、どのテキストがクリックできるのか、エンドユーザーにはわかりにくいかもしれません。そこでツールヒントを編集して、下に「属性をクリックすると同じ値を持つ他のマークが選択されます」という意味のコメントを追加しましょう。この機能を使わない場合は、[カテゴリ別の選択を許可] ボックスのチェックを外します。

コマンドボタン

先ほど気づかれたかもしれませんが、クリックしてツールヒントを固定したとき、コマンドボタンは表示されませんでした。通常なら、同じマークにカーソルを合わせたままにしたりクリックしたりすると、コマンドボタンが表示されます。コマンドボタンを使うと、Viz を直接操作できます。行えるのは単数または複数のマークの保持や除外、グループやセットの作成、マークの参照元データの表示です。

コマンドボタンは便利なが多いのですが、Viz のユーザーに見せたくない場合もあります。コマンドボタンを表示しないようにするには、[ツールヒント] シェルフをクリックして [コマンドボタンを含める] のチェックを外します。また、ツールヒント自体を表示しない設定や、マークにカーソルを合わせたままにしたときにだけ表示する設定にもできます。

ツールヒントからのアクション

ここで、もう少し高度な話に移りましょう。

このツールヒントでは、クリックすると下にリンクが表示されます。これはアクションと呼ばれる機能です。Viz をよりインタラクティブにすることができ、設定に応じてハイライト、フィルタリング、URL のアクセスを実行します。アクションは、マークにカーソルを合わせたときやクリックしたときに直接ビューから実行されますが、この例のようにツールヒント内にリンクとして表示することもできます。アクションの詳しい使い方については、ビデオ「[アクションを使用したダッシュボードのインタラクティブ性](#)」をご覧ください。ここで大切なのは、ツールヒントに表示されるこのようなメニューアクションのテキストは、アクションを使って設定するということです。ツールヒントのエディターにリンクはありません。さて、このリンクをクリックすると、別のシートに移動します。

条件付きツールヒント

ここでそれぞれの棒にカーソルを合わせていくと、下にオーダー優先度が表示されます。棒の色に合わせてテキストの色も変わっていきませんが、どのように設定しているのでしょうか。ツールヒントの他の機能ほどシンプルではありませんが、それほど難しいわけでもありません。

ポイントは、異なる色を付けたいそれぞれの値に対して新しいフィールドを作成することです。ここには、緊急、高などのフィールドがあります。右クリックして [編集] を選択し、設定を見てみましょう。この計算式は、オーダー優先度のフィールドが低だったら低と返し、それ以外の場合は中身のない引用符 2 つになります。つまり、オーダー優先度が低でない場合は、空の文字列を返すという意味です。他の 3 つの計算式も同様で、ただ値が異なっているだけです。

ツールヒントを表示すると、その 4 つの値が連続して、先ほどのように挿入されていることがわかります。オーダー優先度では 4 つの値のうち 1 つしか真にならないので、偽になった 3 つの値は表示されず、真の値だけが表示されます。後は、それぞれのフィールドに自由に色を付けるだけです。ここでは、[その他の色] から [スクリーンの色を取得] を選択して、色の凡例と一致するようにしました。

最後に

ツールヒントのトレーニングビデオをご視聴いただき、ありがとうございます。Tableau の使用方法について、引き続き無料のトレーニングビデオをご覧ください。